

第16回「議員と語りかい」報告書

環境福祉常任委員会

| | | | |
|-------------|---|------|-----------------|
| 開催日 | 平成27年8月18日（火） 午前10時00～午前11時45分 | | |
| 開催場所 | 議会棟 第1委員会室 | | |
| 団体名 | 霧島連山希少植物保全調査会 | 参加人数 | 6人 (男6人：女0人) |
| 出席議員 | 時任 英寛、 宮本 明彦、 宮内 博、 蔵原 勇、 今吉 歳晴 植山 利博、 中村 満雄、 徳田 修和 | | |
| 役割分担 | 委員長（時任 英寛）副委員長（宮本 明彦）記録係（徳田 修和） | | |
| テーマ及び具体的な内容 | キシマツツジの保全と広報について ・現存する古株の調査・保全と文化財指定、またキシマツツジの苗木の育成と植栽を広める。環境問題に関する点 | | |
| 感想 | 自然と文化の保全にかかる活動として素晴らしい取組であると感じた。 | | |

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

◆キシマツツジの植栽をすすめたい。古木を天然記念物指定してほしい。キシマツツジの希少性を広く認識してほしい。

◇古木がいくつ現存しているのか把握できているか。

◆国分春山の島田さん宅のツツジは約450本植えられている。霧島市で20本くらいはあると考える。先祖代々の言い伝えをもとに推定しているうえに、土壌や気候によって生育状況が違い大きさを判断できない。現在も調査中である。ただ、隼人地区での情報が得られていないので、情報がほしい。

◇何年経ったものを古木と認定しているのか。

◆樹齢100年を超えるものを古木と認定している。

◇調査状況を示してほしい。

◆えびの市の大河平（おこびら）や白鳥温泉近くに多く、そこから広がっていったと考えられる。情報をもとに調査してDNA鑑定をお願いし、専門家の判断を仰いでいる。花が咲けば見てわかるが、花が咲く時期はどこも同じなので、一斉に調査するのは難しい。また、国立公園内が多いので、サンプルの持ち出しも勝手にできないため苦労している。

◇市役所に移植されたものは、クリスマスツジであると証明されているのか。

◆証明されている。

◇ツツジの株は増やすことができるのか。

◆挿し木で増やしている。生育が遅いので成果を得るには時間がかかる。おおよそ10年経過すると花が咲く。挿し木より取り木のほうが、枝が太いので実験をする予定。

◇保全はどのように行っているのか。

◆後継者がいなく空き家になっている庭にあたりするので、会員が消毒をしたりしている。かずらや雑草に負けて枯れてしまうので注意している。また挿し木は水の管理が難しい。

◇保全に関する予算はどうなっているのか。

◆市からの直接の補助はなく年間5万円ほど霧島連山自然保護団体から助成を受けている。会員から年会費を合わせて7～8万円の予算があるが、まかなえていない。国分中央高校が機材を持っているので協力をもらっている。

◇市からの協力は得ていないのか。

◆人的な協力は受けており非常に助かっている。

◇NPO法人化などを進めるべきではないか。

◆自分たちはまだ歴史の浅い団体でありこれから検討していきたい。

◇認識を広めるためにもツツジのある場所を公表して観光資源として活用するべきではないか。

◆公表したいが、盗難をおそれて承諾を得られないケースがある。

◇会員は何名いるのか。

◆15人ほどいるが若い人がいない。認識を広げて活動を続けるためにも、若者の参加や育成をしていきたい。